

令和5年度 第4回青梅市子ども・子育て会議 要旨

会議の概要

| | |
|------|---|
| 開催日時 | 令和5年11月20日(月) |
| 開催場所 | 青梅市役所災害対策本部室(オンライン併用会議) |
| 出席者 | <p>委員</p> <p>坂井隆之(明星大学特任教授) 中村明子(市民委員) 野口綾乃(市民委員) 黒田英寿(学校法人和風会多摩リハビリテーション学院専門学校事務長) 池田政教(青梅商工会議所専務理事) 高木博康(青梅市保育園理事長会副会長) 星野弘美(青梅かすみ台第二保育園園長) 横山牧人(青梅幼稚園園長) 空野竜雄(株式会社モアスマイルプロジェクト経営担当) 栗原久美子(特定非営利活動法人青梅こども未来常務理事) 大野葉子(青梅市民生児童委員合同協議会理事)</p> |
| | <p>事務局</p> <p>木村(こども家庭部長) 濱野(子育て応援課長) 加藤(こども育成課長) 中村(こども家庭センター所長) 師岡(子育て応援課子育て推進係長) 飯島(子育て応援課子育て推進係)</p> |
| 欠席委員 | 刀禰浩子(青梅市立第五小学校校長) |
| 議事 | <p>○ 答申 (1) 特定教育・保育施設の利用定員の設定について(答申)</p> <p>○ 報告事項 (1) 青梅幼稚園の認定こども園への移行について</p> <p>○ 協議事項 (1) ニーズ調査の中間集計について</p> |
| 傍聴人数 | 2人 |
| 配布資料 | <p>会議次第 資料1 特定教育・保育施設の利用定員の設定について(答申) 資料2 青梅幼稚園の認定こども園への移行について(報告事項) 資料3①～⑥ ニーズ調査の中間集計について(協議事項) 参考配布 こども・子育て推進に関する実態調査(保護者版) こども・子育て推進に関する実態調査(中高生版)</p> |

議事要旨（口述筆記ではなく、発言の趣旨をまとめたものである。）

| 発言者 | 発言要旨等 |
|-----|--|
| 事務局 | 令和5年度第4回子ども・子育て会議を始める。本日の会議は、青梅市子ども・子育て会議条例第5条第2項により、定員数に達しているため本会議は成立していることを報告する。また、議事録作成のために本日の会議も録音する。 なお、本日の会議に、「ニーズ調査」や「子ども・子育て支援事業計画」策定の委託契約を青梅市と締結している、委託業者もオンライン参加している。 |
| 事務局 | 机上の資料の確認を行う。配布漏れは無し。 |
| 事務局 | これ以降の進行は会長にお願いします。 |
| 会長 | 次第に沿って会議を進める。まず、次第3「答申」について事務局に説明を求める。 |
| 事務局 | 答申の説明。会長から答申の受け渡しを行う。 |
| 会長 | 次に、次第4「報告事項」について事務局に説明を求める。 |
| 事務局 | 次第4「報告事項」青梅幼稚園の認定こども園への移行について説明を行う。 |
| 会長 | 質問あるか。 |
| 委員 | 特になし。 |
| 会長 | 次に、次第5「協議事項」について事務局に説明を求める。 |
| 事務局 | 次第5「協議事項」について説明を行う。 |
| 事務局 | 今回は中間報告のため、今後クロス集計等を行い詳細な分析結果を提示する。また、「①就学まえ保護者」、「②小学生保護者」、「④中学生保護者」、「⑥高校生保護者」、「③中学生」、「⑤高校生」の順に説明する。最後に、委託業者からも説明をしていただく。なお、今回は初めての試みで、中学生・高校生自身の意見も調査した。 |
| 事務局 | 資料3①「就学前保護者」について <ul style="list-style-type: none"> ・問9「あなたの世帯の経済的状況」の回答が、「やや苦しい」「大変苦しい」が4割程度である。 ・問12「生活するうえでの不安や悩み」の回答が、「生活費に関すること」「教育費に関すること」が7割弱、「子育て・教育に関すること」が60%、「自身を含む家族の健康(病気)に関すること」が30%、「家族の介護」が4.4%。 ・問13「不安や悩み、困りごとの相談」の回答が、「相談する人はいない」が3.1%で低い。 ・問14「毎日朝食を用意するか」の回答が、「用意しない」が1.5% ・問15「こどもとどのような体験をしたか」の「年に1回家族旅行」の回答が、「金銭的な理由でない」が15.3%。 ・問17「習い事をしているか」の回答が、未就学児の親ということもあって「なし」が72.1%。 ・問19「下記サービスについて知っているか」の「①子育てひろば」の回答が、「利用したことがある」が半数を占めているが、「利用したことがない・知 |

| | |
|-----|--|
| | <p>らない」が半数いる。「②子育てアプリ」の回答が、「利用している」が2割程度、「存在を知らない」が2割程度であり、周知をしていく必要がある。「⑤生理用品の配布」の回答が、「存在を知らない」が約半数であり、周知が課題である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問20「ヤングケアラー」の回答が、「知らない」が2割。 ・問25「青梅市の子育て環境や支援について」の「学校教育」の回答が、未就学児の親ということもあって「該当なし」が多い。「給付金関係」の回答では、満足度がやや低い傾向にある。 ・問26「どうすれば子育てがしやすくなるか」の回答が、「子育てに対して勤務先や職場の理解・協力が得られる環境」「困った時、緊急時にこどもを預けられる環境」が3割程度、「児童手当など経済的に充実した環境」が4割程度で高めになっている。 |
| 事務局 | <p>資料3②「小学生保護者」について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問9「あなたの世帯の経済的状況」の回答が、「やや苦しい」「大変苦しい」が4割程度である。 ・問12「生活するうえでの不安や悩み」の回答が、「生活費に関すること」「教育費に関すること」が6割程度、「子育て・教育に関すること」が53%、「自身含む家族の健康に関すること」が33%、「家族の介護」が8.4%であり、未就学児保護者と同様に、自身、家族の健康について悩んでいる方が3割程度いる。また、「生活費に関すること」が上位にきている。 ・問13「不安や悩み、困りごとの相談」の回答が、「相談する人がいない」が5%おり、誰にも相談出来ない人が少なからずいる。 ・問15「こどもとどのような体験をしたか」の回答が、「年に1回家族良好」の回答が、「金銭的な理由でない」が10%程度だが、「習い事」の回答では、「ある」が76.6%であり、資金的に余裕がなくても、先の長いことには資金を割いている。 ・問16「1年間でお金に困ったことはあるか」の回答が、「あった」が7.3%であった。「家賃や公共料金の滞納」の回答が、「あった」が9.4%。 ・問17「習い事をしているか」の回答が、多くの人が習い事をしているが、「なし」の回答が21%。 ・問19「下記サービスについて」の回答が、「②子育てアプリ」について「存在を知らない」が44%であるが、アプリが開始されて6年しか立っていないので、知らない人が多い。また、「③子ども食堂」について「利用したことがある」が10%程度であった。「⑤生理用品の配布」について「存在を知らない」が44%であった。 ・問20「ヤングケアラーについて」の回答が、「知らない」が18.5%であり、一定数知らない人がいる。 ・問25「青梅市における子育て環境や支援の満足度」の回答で、「給付金関係」に満足度が低いという傾向が見られる。 |

| | |
|-----|--|
| | <ul style="list-style-type: none"> ・問26「どのような環境を整えば、子育てがしやすくなるか」の回答は、「子どもたちが安心して遊べる場所」、「児童手当などの経済的支援」、「高校や大学進学のための経済的支援」が多く、経済的支援を必要としている人が多い傾向にある。 |
| 事務局 | <p>資料3④「中学生保護者」について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問12「どのような不安や悩みを持っているか」の回答が、「生活費に関する事」、「教育費に関する事」、「子育て・教育に関する事」、「家族の健康に関する事」が多く、「家族の介護」が13.5%、「子どもの不登校」が7.6%と高くなっている。 ・問15「子どもとどのような体験をしたか」の「年に1回家族良好に行く」の回答が、「金銭的な理由」が17.6%となっている。しかし、「習い事」に関しては、「ある」が7割程度となっている。 ・問16「1年間でお金に困ったことはあるか」の「家賃や公共料金の滞納した事」の回答が、「ある」が14%だった。 ・問17「子どもの習い事」の回答で、「なし」が28.8%であり、小学生保護者と同様の傾向がみられた。7割程度が何かしらの習い事をしている。 ・問19「下記サービスについて」の「①子育てひろば」の回答で「利用している」が34.7%であった。「②子育てアプリ」の回答で「利用している」が2.9%であり、アプリが開始されてからの年齢を考えると知らない人が多い。 ・問20「ヤングケアラーについて」で、「知らない」が11.8%であった。 ・問25「青梅市の子育て環境や支援への満足度」の回答で、「給付金関係」の満足度が低い傾向がある。 |
| 事務局 | <p>資料3⑥「高校生保護者」について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問12「どのような不安や悩みを持っているか」の回答では、「生活費に関する事」、「教育費に関する事」の割合が高く、「子育て・教育に関する事」、「家族の健康に関する事」が30%程度となっている。また、「家族の介護」については、11%程度となっている。 ・問16「1年でお金について困ったこと」の回答で、「家賃や公共料金を滞納することがあった」で「あった」が11.3%であった。 ・問17「習い事について」の回答が、高校生ということもあり「なし」の回答の割合が58.9%と高くなっている。 ・問19「下記サービスについて」の「②子育てアプリ」の回答が中学生保護者と同様の傾向がみられた。 ・問20「ヤングケアラーについて」の回答が、「知らない」が17.9%となっている。 ・問25「青梅市の子育て環境や支援への満足度」の回答で、「給付金関係」の満足度が低いという傾向がみられた。さらに、「満足度がやや低い」よりも「満足度が低い」の回答の方が割合が高い。 |

| | |
|-----|---|
| 事務局 | <p>資料3③「中学生」について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問4「朝食について」の回答が、多くの人が「ほとんど食べている」と回答しているが、「ほとんど食べない」、「全く食べない」という回答が3%程度あった。 ・問8「休日は誰と過ごすか」の回答が、「自分の家族と過ごす」が84%であった。「部活動、習い事など」が43.5%、「家族と出かける」が45.8%であった。 ・問10「理想的にはどの学校まで行きたいか」の回答で、「高校まで」が12.2%、「大学まで」が67.2%であった。 ・問11「現実的にはどの学校まで行きたいか」の回答で、「高校まで」が26%、「大学まで」が53.4%であり、大学まで行きたいと考えている人が多い。 ・問13「将来なりたい職業があるか」の回答で、半数が「ある」と答えている。 ・問17「自分自身について」の「①自分に自身がある」で、「どちらかというとない」、「ない」の回答が約半数であり、自分に自身がない傾向にある。また、「③大人は信用できる」の回答が、「そう思う」、「どちらかというともう思う」が7割程度であった。「⑤将来の夢や目標を持っている」の回答が、「持っている」、「どちらかというともう持っている」が7割程度持っている。「将来のためにも今頑張りたい」の回答で、85%程度の人が「そう思う」、「どちらかというともう思う」と回答した。「⑦将来働きたいと思う」の回答で、90%程度が「そう思う」、「どちらかというともう思う」と回答した。 ・問18「家族のことなどで困っていること、心配なこと」の回答は意見が分かれており、「特にない」が64.9%であった。「親が自分の気持ちをわかってくれない」が9.2%であった。 ・問19「困りごとや悩みごとは誰に相談するか」の回答が、「お父さん・お母さん」、「学校の友達」の割合が高い。また、「インターネットなどを通じて知り合った直接あったことのない人」が6.9%の回答があり心配である。 ・問23「ヤングケアラーについて」の回答が、「知らない」が51.9%であり、中学生では認識が低いということがわかる。 |
| 事務局 | <p>資料3⑤「高校生」について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問7「家族の中にお世話している人がいますか」の回答で、「いる」が13.4%であった。 ・問8「休日は誰と過ごすか」の回答で、「自分の家で家族と過ごす」と「部活動や習い事」が多かった。また、「ショッピングモールやファストフード店で友達と過ごす」が27.6%であった。 ・問9「①現在アルバイトをしているか」では、高校生ということもあり「している」が30.7%であった。 ・問10「理想的にはどの学校まで行きたいか」の回答で、「高校まで」、「専門学校まで」が約25%、「大学まで」が60.6%であった。 |

| | |
|------|--|
| | <ul style="list-style-type: none"> ・問11「現実的にはどの学校まで行きたいか」の回答では、「大学まで」が57.5%と若干下がっているが、問10と同様の傾向がみられる。 ・問16「自分の身体や気持ちで気になることはあるか」の回答では、「やる気が起きないことがよくある」が44.1%であり、今後クロス集計等で理由がわかるかもしれない。 ・問17「①自分に自信がある」の回答は、「ある」と「ない」が半々になっている。中学生と比べると、成長に応じて自信が出てくる傾向がみられた。また、「③大人は信用できる」の回答では、「そう思う」、「どちらかというと思う」が75%程度であった。「⑥将来のために今頑張りたいと思う」の回答では、「そう思う」が85%程度であった。「⑦将来働きたいと思う」の回答では、より現実が近づいていることもあり、「そう思う」が90%を超えている。 ・問19「困りごとや悩みごとは誰に相談しますか」の回答では、「インターネットなどを通じて知り合った直接会ったことのない人」が5.5%であり、少し高い。 ・問23「ヤングケアラーについて」の回答では、「知らない」が44.9%であり、中学生よりは若干低いものの、高校生においても認知度が低い。 |
| 委託業者 | <p>「保護者について」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・不安や悩み事は、年齢が上がるにつれ教育費などの割合が高くなっている。 ・子育てアプリに関しては、年齢が上がるにつれ知らない割合が高くなっている。 <p>「中学生・高校生について」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・放課後の過ごし方は、高校生になると家族よりも友達と過ごす傾向にある。 ・ヤングケアラーについては、中学生、高校生共に半数くらいが知らない。 ・しかし、家族にお世話をしている人が少数いるため、自分が気づかぬうちにヤングケアラーになっているのではないか。 <p>今後、クロス集計等を行いしっかりと分析をしたいと思う。</p> |
| 事務局 | <p>厚生労働省が実施している、「国民生活基礎調査」という調査が去年実施された。その結果によると、「夫婦とこどものみの世帯」が78%である。青梅の場合は、集計したところ81.8%であり、国の調査よりも高い数値である。さらに、同調査で「三世代世帯」の割合が、7年前は27%であったが、去年は11%であった。青梅については、6%であった。この結果を見ると三世代で暮らしている家庭が少ないということがわかる。また、同調査で「ひとり親世帯」についても調査がされており、国の調査では6%だったが、青梅は8.3%であった。以上の結果から、青梅においては「夫婦とこどものみの世帯」と「ひとり親世帯」が多く、「三世代世帯」が少ないということがわかる。こういった核家族化、家族構成を念頭にこれからの「こども計画」を策定していかなければならない。</p> |
| 会長 | <p>質問、意見あるか。</p> |

| | |
|-----|---|
| 委員 | 赤ちゃん訪問をやっているが、その際に資料等を配ってアプリなどを周知しているが、認知率が低いことに驚いた。周知の仕方を考えるべきだと思う。 また、ひとり親世帯が多いことにも驚いた。民生委員は高齢者の元を回ることが多いが、ひとり親世帯も回らないといけなくなるのかなと思った。 |
| 委員 | 保護者向けの問26の回答で、「子育てに対し、勤務先や職場の理解・協力が得られる環境」が比較的高いが、この結果を踏まえ、市としてどのような対策を一番先に行うのか。 |
| 事務局 | 現状は、中間集計のみの状況なので、クロス集計してみないとわからない。 |
| 会長 | 他にあるか。 |
| 委員 | 自分が、子どもを産んだ時に、民生委員の方が家に来てくれたが、1人目の時は手一杯で、説明を受けても覚えていられない。実際にアプリは使っていない、使うことのメリットも知らない。 また、子育てひろばは、体育館などでやっているものを全て含めて子育てひろばと呼ぶのか。 |
| 事務局 | 子育てひろばの説明は、保護者用質問用紙の8ページの問19の注釈①に説明が記載されている。 |
| 委員 | 今回の調査は、コロナ禍での調査だったので、利用をしたことがない人が多いのではないかと思った。 |
| 会長 | 他にあるか。 |
| 委員 | 中高生本人への質問で、問7の回答で「無回答」が多くなってしまったので、質問をもう少し答えやすいものにするべきだったと思った。 また、高校生への質問の問7①の回答で、「お母さん」と答えた割合が76.5%である。高校生ともなると家事の手伝いなどをすることが増えてくるので、そのことを言っているのか、本当に母親の具合が悪く家事をやっているのかわからない。詳しい分析が必要だと思った。 |
| 会長 | 他にあるか。 |
| 委員 | 問15の回答で「青梅市内」と答えた割合が、中学生12.1%、高校生15%近くとなっている。これは、少子化社会の中で働き手というテーマで着目すべき数字だと思う。今後地元で働きたいという子どもたちが増えるように努力していかないといけない。 |
| 会長 | 他にあるか。 |
| 委員 | 10月から子ども食堂を開催しているが、本当に必要な家庭に支援が行き届いているか疑問に思う。今回のニーズ調査で、子ども食堂の認知率はわかると思うが、この先本当に支援が必要な家庭にどのように認知させていくか等をこの会議で議論出来たらいいなと思う。 |
| 会長 | 10年ほど前に仕事をしていた市では、「だれでも食堂」という名前でやっていた。子どもだけでなく、高齢者の方も来る。生活が苦しくない人でも来れないとスティグマの問題になってしまうので、こういった工夫をしていた。 |

| | |
|-----|---|
| 委員 | 通学路にこども食堂があるので、多くの小学生が来る。相手がこどもたちなので、無下に対応することもできない。ある程度の線引きは必要だと思っている。元々、こども食堂を始めた趣旨は、本当にご飯が食べられていないこどもたちに食事を提供すること。しかし、そういったこどもたちに的確に支援をするのは難しいと感じている。 |
| 事務局 | こども家庭庁の政策の4つの方針の1つに、「こどもの視点に立った司令塔機能の発揮、こども基本法の着実な施行」と謳われている。その中の3項目目に、「こどもの意見聴取と政策への反映」との記載がある。青梅市では、第7次総合長期計画の策定に際し、「中学生オンライン生徒会交流会」などを開催し、こどもの生の声を聴いた。今回のニーズ調査のこどもの意見について、次期計画に反映させるためにも、委員の皆さんの率直な意見をいただき、これからの青梅市について一緒に考えていきたい。 |
| 会長 | それでは、協議事項について議決を取りたいと思う。ニーズ調査の中間集計について承認してよいか。 |
| 委員 | 異議なし。 |
| 会長 | 異議がないので、協議事項については承認する。事務局から何かあるか。 |
| 事務局 | 特になし。 |
| 会長 | それでは、令和年度第4回青梅市子ども・子育て会議を閉会とする。次回会議は、令和6年2月5日（月）となります。お疲れ様でした。 |

会議録を確認したことをここに署名する。

令和 年 月 日